

第一回 歩き遍路 阿波ノ巻

2014年9月9日～9月15日

第一番・霊山寺～第二十三番・薬王寺

152.7 km



遍路の記録

(以下○は札所番号)

9月9日

①^{りょうぜんじ}霊山寺⇒②極楽寺⇒③金泉寺⇒④大日寺⇒⑤地藏寺 計 10.5km

(井原⇒JR 岡山駅⇒(瀬戸大橋線)⇒JR 高松駅⇒JR 高德線「坂東駅」下車)

13:00①霊山寺発～13:35②極楽寺発～14:40③金泉寺発～16:30④大日寺発～17:00⑤地藏寺着

【泊】民宿・寿食堂(良、2食付7000円、料理もママア結構、地藏寺まで迎車してくれた)。

食堂もやっているの、通例は宿を休むことはないそうだ。地藏寺から17時過ぎに予約の電話をしたら、ハイハイ、お泊り下さいと地藏寺まで車で迎えに来てくれた。

※菅笠と納経帳を①霊山寺の総合案内&納経所で買った。白衣と杖は邪魔になるので買わなかった。

ここの職員は対応が良くなかった。また、山門などには白衣を着せた人間そっくりのお遍路人形が置かれていて気持ちが悪い。「お遍路はこのような服装で廻るべし、よって道具をここで買い求められたし」とでも言っているようで、商売優先の気配が丸見え。霊山寺は一番札所であるからか、観光バスでドッと観光お遍路が来ているようなので、さもありませんと思われる。お遍路さんの話では、門前の仏具屋の方が親切で値段も安いとのこと。

※民宿・寿食堂の御主人に最低限の参拝の作法を教えて貰った。

まず、山門に入る時には右側の仁王像(金剛力士)に一礼する。右側の金剛力士は開口の阿形像であり、左側の方は閉口の吽形像である。両者を合わせて“阿吽”である。山門を出る際には左側の吽形像の方に礼をする。金剛力士は寺院内に仏敵が入り込むことを防ぐ守護神としての性格を表している。山門には、仁王像以外に守護神としての鶴が祀られていたり(第20番鶴林寺)、大きなワラジが奉納されている例もある(第17番井戸寺)。

山門を入ったら、まず手水舎で手と口を漱いで身を清める。次に本堂で本尊を拝む。次に弘法大師が祀られている大師堂で弘法大師を拝む。線香やローソクを灯すのが通例である。

一応これで参拝は終わるので、次に納経所で納経をする。

(納経帳に寺の印号とその寺の本尊の御影を頂く)。



(1 番札所「霊山寺」)



(2 番札所「極楽寺」)



(3番札所「金泉寺」)



(第4番札所「大日寺」)



(第5番札所「地藏寺」)



(どこかの寺の山門の大草鞋)



(道しるべ3題)

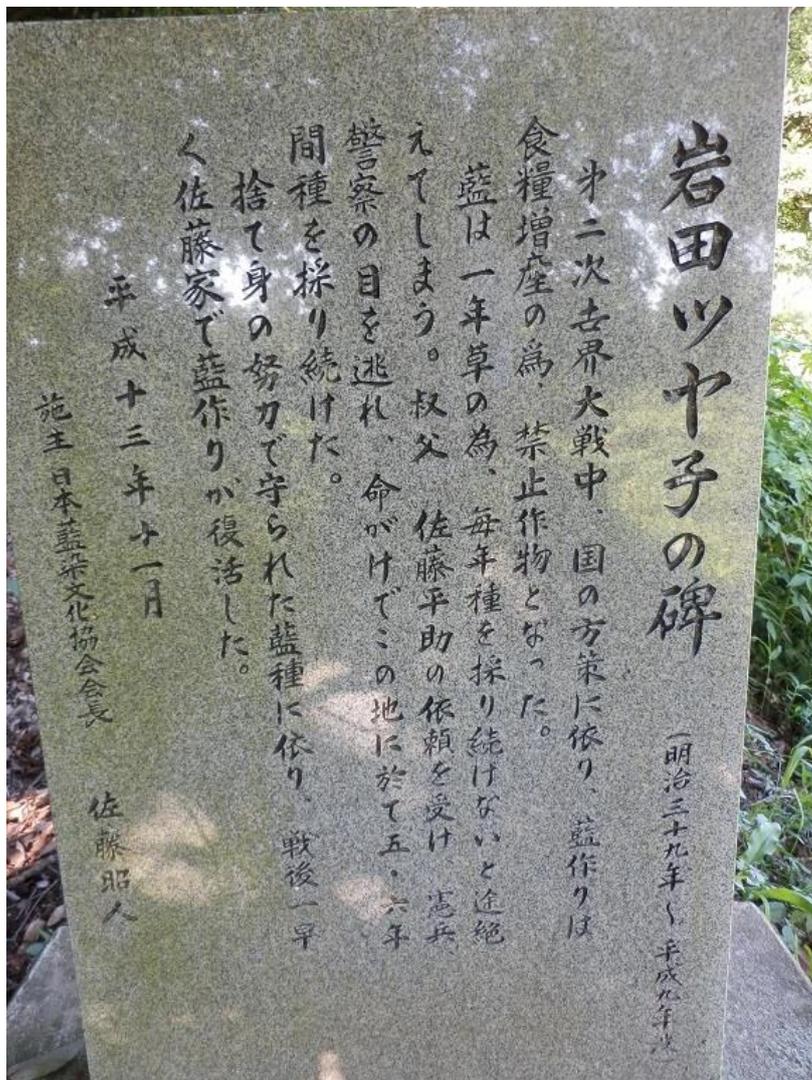


(このような道標も)

徳島県板野郡は藍の特産地⇒

※一期一会

岡山県の小生と同じ村の出身の人。秀平さん。小生よりも一廻り若い。大阪在住。経営していた測量会社を息子に譲ったのを機に、遍路に出たそうだ。



9月10日 寿食堂～⑥安楽寺～⑦十楽寺～⑧熊谷寺くまだにじ～⑨法輪寺～⑩切幡寺～⑪藤井寺 計 26.2km

7:15 民宿寿食堂発～8:00⑥安楽寺発～8:45⑦十楽寺発～10:30⑧熊谷寺発～11:25⑨法輪寺発～13:15⑩切幡寺発～八幡うどん亭昼食 (14:00～15:00) ～途中タクシーを呼び⑪藤井寺～

17:00 さくら旅館泊 (JR徳島線鴨島駅前、送迎ナシ、2食付 6,600円、良)。タクシー代 3,400円。

※さくら旅館は寿食堂の紹介。良。本日の宿泊者は上記下稲木の秀平氏と2人のみ。

宿泊者それぞれに旅館主人の手書きの御礼と前途の遍路無事を祈る手紙を頂いた。

※切幡寺は、登り口から結構急坂が続き、また本堂までは333段の長い石段があつて、結構キツイ。



⑥安楽寺



田圃の中の⑦十楽寺



十楽寺手前の「真念」みちしるべ



⑧熊谷寺



⑨法輪寺



⑩切幡寺





切幡寺から吉野川
流域を俯瞰。
向うの山は剣山地。
手前稜線中央のやや
左寄りの山が翌日登
拝した焼山寺がある
焼山寺山。



遍路道 みちしるべ

※本日のコースは鴨島の町を出たら終点の鍋岩集落まで店や民家は全く無く、藤井寺から焼山寺までは全くの山道となるので、鴨島のコンビニでパンと水を仕入れた。さくら旅館でもお接待として握り飯2ケと缶茶を持たせてくれた。藤井寺は昨日の内に参拝していたので、本日は通過したのみ。

7:00 さくら旅館発～8:00⑪藤井寺発～10:00 水大師通過～10:30 長戸庵通過～12:00 柳水庵*着（夕立、本堂の階段で雨宿り・昼食、同 13:00 発）～14:00 一本杉庵～16:00 焼山寺～鍋岩集落（善根宿すだち館）。

*柳水庵の直ぐ下の道路終点には立派な畳敷き和室の遍路小屋があり、宿泊もできるようだ（無人）。

柳水庵の遍路小屋を発つ時は未だ雨が降っており、荷物も結構重かったし、ここから焼山寺までは2回の山越えがあり時間も3時間半以上も掛かるので本日は一旦神山温泉まで下り、明日改めて焼山寺にタクシーか神山温泉の送迎車で（かようなものがあるかどうか知らないが）登り返そうかという誘惑に駆られた。喉から手が出るほどになっていたが、どうやら雨も上がりそうな気配だったし、折角歩き遍路で来たのだからここで車を使うのもシラクであるから、重い足を上げて急な山道を登り始めた。

一本杉庵まで1時間ほど標高差300mを登ると、今度は逆に300mの急坂を下って左右内の集落に着いた。左右内の集落からは神山温泉に下る道があるので、我が足は神山温泉方面の道に下りたがっていたが、そこを何とかゴマカシつつ焼山寺最後の急坂「一番坂」に再び取り付いた。焼山寺山門入口に着いたのは16時であった。

山門を入ろうとしていると後ろから来た車に呼び止められた。今晚の宿は決まっているかと聞いてきた。今回の遍路は、もともとオール野宿の積りであったから、宿を予約するようなことは全くせず、その日の夕方になって直接宿を訪ねるか、せいぜい直前に電話で空いているかどうか聞くかスタイルだった。従って、この日も焼山寺の宿坊に泊まれればそれでよし、泊まれなければ1時間半の徒歩の下りで民宿がある鍋岩集落に着くので何とかなるだろうくらいにしか考えていなかった。

後で皆さんに聞いてみたら、通例は、宿は少なくともその日の朝に電話で予約しないと、空いていても断られるケースが多いとのことだった。特にお寺の宿坊は予約しておかないと絶対に泊めて貰えないそうだ。

宿坊の予約の件は食事などの用意もあるだろうから致し方ないとしても、今回の全般の感じでは札所（霊場）のお寺はお遍路に対しては対応が親切ではないように見受けられた。宿の主人などの話でも、もともとお寺は遍路のためにだけあるのではないけれども、それにしても納経帳などで遍路からの結構な収入がありながら、遍路を歯牙にもかけていない態度はけしからんと言っていた。対応が良い札所もあったので、すべての札所が不親切ではないだろうが、マ、霊場も遍路に拠っている要素があるとすれば、四国八十八箇所霊場も後発の四国別格二十霊場にお株を取られることになるかも知れない。

話が横道に逸れたが、車から呼び掛けた人は下の鍋岩で善根宿をやっているとのことで、先程柳水庵で遇った遍路を乗せていた。寺の宿坊は予約がないと断られるから、もしよければ私の善根宿に泊まってくれてもいいよ。この車で宿まで乗っけるから、ゆっくり参拝してきていいよ、とのことだった。

今晚の宿の当てもなかったし、今朝宿を出てからアップダウンの山道を既に9時間も歩いて来て足裏にも大きなマメができていて痛かったので、これは仏様の（弘法大師様の）お導きに違いないとこの渡りの舟に乗った。

鍋岩への道で「杖杉庵^{じょうしんあん}」などにも立ち寄って見せてくれた。善根宿は「すだち館」という名前で、かつての教員宿舎をそのまま宿として使っているようだ。2段ベッドの部屋でエアコンもなく黴臭く、

食事也非常に素朴な物であったが、神山温泉の無料入浴券も頂き、また温泉への送迎もしてくれて、誠に結構であった。2食付で4,000円というのも有り難かった。

※神山温泉は泡風呂やサウナなどの設備もある立派な温泉。ホテルもある。

※一期一会

●藤井寺の上で福島県の二人連れ（叔父と甥の二人連れ）と会う。福島のその後の被災復興状況などを尋ねると、福島県で騒いでいるのは原発と利害関係がある浜通りの人々のみで、中通りや会津は静かなものだそう。近々知事選があるが、今の知事は東電との癒着で評判が悪く、立候補しても再選の目途が立たないので立候補せず、代わりに自派の副知事を立候補させたとのこと。

この二人連れとは平等寺の宿でも一緒になったが、次の日和佐の23番「薬王寺」で分かれた。

●川崎市の単独の人 柳水庵で独りで雨宿りしていた人。藤井寺から柳水庵まで5時間も掛かったので、焼山寺に登る元気は残ってはず、宿の車に迎えに来てもらうとか言っていた。

実は、焼山寺の山門のところまで小生に声を掛けてくれた人が、彼を柳水庵まで迎えに来て焼山寺まで送って来てこれから鍋岩へ連れて帰る途中の善根宿「すだち館」の主人であった。

川崎の彼とは、この善根宿でも、また途中の道々でも一緒になった。民宿「鮎の里」でも一緒になったが、3日後の太龍寺で会って以来以後は会う機会が無かった。



藤井寺境内から焼山寺への登り口



これもみちしるべ？



山肌にへばりついた左右内の集落、すだち栽培



⑫焼山寺



途中の長戸庵（無住）



焼山寺の観音様

すだち館のご主人曰く、例の川崎の遍路氏を大日寺まで車で送って行くので一緒に行くなら同乗してもよいよとのことだったので、足の豆が痛くて堪らなくなっていたこともあって、焼山寺（鍋岩集落）から次の札所⑬大日寺までの7時間の歩きを1時間の車で送ってくれるのは、またまた弘法大師のお導きかと有り難くお受けした。従って、この車の送迎によって予定より1日分アドバンスできた結果となった。すだち館のオカアさんに、「弘法大師への送迎代のお布施」はいかほど差し上げたらよろしいかとお尋ねしたところ、それでは折角の御厚志だから御大師様に3000円差し上げて下さい、その代り昨夜のビール2本は御大師様からのお接待にして帳消しにしますとのことだった。宿から大日寺までは25km、運転してくれたご主人が遍路道やこの辺の地誌・郷土史などについて道々案内してくれたので楽しかった。仮にタクシーを頼めば相当の金額になるだろうから、大助かりだった。

剣山地の東端から吉野川の支流である鮎喰川の溪谷沿いに車を走らせること約1時間、徳島市の平野部に再び下って、第13番札所大日寺に到着、ご主人と川崎の遍路氏と別れて歩き遍路を再開した。

平地のアスファルトの上は真夏の灼熱地獄であった。野宿もできるように衣類の替えやら雨具やらも沢山持参していたし、山折哲雄や五来重や高群逸枝の遍路本なども途中で読めるかと沢山持ってきたのでザックが重く、持ち上げてみた宿のご主人曰く、この重さでは歩き遍路はとても無理だから大日寺まで下ると郵便局があるので宅急便で送り返したらどうかとの有り難いアドバイス。今迄泊まった遍路宿にも全て全自動洗濯機と乾燥機が設置されていたので、夕方宿について風呂に入り浴衣に着かえてその日に着いた汗まみれの衣類を洗濯機にブチ込めば、ビールを飲んでいる間に乾燥も終了、替えの衣類は全く必要無しということが分かったし、夏なので雨が降っても濡れて歩けばよい訳だから、最低限必要な物だけ残して雨具も含めて不要な物は全て郵便局から送り返したのでザックも半分くらいの目方になった。

本日の予定は、元々第12番札所焼山寺から第17番井戸寺までとしていたし、井戸寺を終わってから昼食に入った国道沿いの中華料理屋でビールで喉を潤しているうちに、これから灼熱地獄の国道を徳島市街経由で5時間以上も歩いて次の札所第18番恩山寺まで行くのはカッタルようになってきた。

聞けばJR徳島線の「あくい（鮎喰）駅」が近くにあるというではないか。マ、今日は善根宿の車で1日分の歩き距離を送ってもらったことでもあるし、ズルした序に恩山寺近くのJR牟岐線「南小松島駅」まで電車で行くことにした。南小松島駅で下車して、恩山寺近くの遍路宿「民宿ちば」に電話を入れたら、民宿は一人でやっているの送迎はできないとのことだった。駅からはタクシーもなく、歩けば民宿までは小1時間は掛かるので、駅で近くの旅館を紹介してもらった。本日の道は全て舗装道路。

7:00 すだち館発(車)～8:00⑬大日寺発～9:00⑭常楽寺発～9:40⑮国分寺発～(郵便局で荷物発送 30分)
～12:15⑯井戸寺発～13:15 中華料理屋、同発 13:45～電車～16:30 南小松島旅館「みどり」着(泊)
(「旅館みどり」素泊まり 5,000円 (アウトバス・アウトトイレ。夕食は旅館内の食堂で別口)



左2枚=大日寺
右=常楽寺



国分寺



井戸寺

9月13日

南小松島駅～⑱恩山寺～⑲立江寺～⑳鶴林寺登山口 計 17.9km

6:30 旅館みどり発～7:40 恩山寺発～（恩山寺下で大船の遍路氏と 30 分立ち話）～9:25 立江寺発～
12:00 レストラン「あおき」、同発 14:00～14:30 鶴林寺登山口（生名、路の駅「ひなの里」）

恩山寺は、入り口から急坂の山道を 20 分登らねばならない。結構長い。途中には山中に大きな牛舎があつて臭い。今は廃業？ 恩山寺を下った所で大船から来たという遍路氏に会い、立ち話。笠間十字路の近くの住人だそう。

立江寺から鶴林寺登山口・生名集落への道は、1 車線の狭い道路で歩道も無く危なかしいことこの上もなかった。途中、バスが来たので僅かな間であったがバスに乗った。峠を越えると広い道路になったので、灼熱地獄の下をトコトコと歩いて行った。途中に鄙には稀な洒落たレストランがあつたので、うどんでも喰うかと入ってみた。あまりの暑さにビールを 4 杯も飲んでしまい、2 時間もここに居た。

鶴林寺登山口の生名集落（道の駅「ひなの里」）には、ここから 30 分で着いた。今晚の宿は鶴林寺の宿坊に泊まろうと考えていたので、宿坊に電話してみると「宿坊は廃業しているので登山口の民宿『金子や』に泊まれ」とのことであつた。鶴林寺を越えるとその先は太龍寺を越えて、ここ生名集落からは 6 時間程歩いた所（阿瀬比手前の民宿「坂口屋」）まで宿泊所は無いので、今晚はここ生名の辺りに泊まらざるを得なくなった。「金子や*」に行ってみると、満員だと断られた。この近辺には他に 2 軒ほど民宿があるが、どこも満員とのことであつた。

仕方なく、道の駅**に戻りどこかに泊まれる所は無いかと聞いてみると、それでは空いているかどうか聞いて見てあげると、ある民宿に電話してくれた。立江寺まで戻った近くの「鮎の里」という遍路宿で、今日はここまで迎えに来てくれて、明朝はまたここまで送ってくれるという。迎えに来てくれた民宿の車で、今朝歩いて来た道を宿まで連れ戻して貰った。何と、途中でピックアップされた遍路氏は例の川崎の遍路氏であつた。彼は、この民宿に連泊して、鶴林寺、太龍寺、平等寺の 3 札所を宿の車で送迎して貰っているらしい。

この宿の主人は、遍路協会の自称事務局長を仰せつかっているようで、なかなか親切な人だつた。足のマメも針で糸を通して治療してくれ、モーラスも貼ってくれた。食事もなかなかの御馳走であつた。この宿に連泊すれば、鶴林寺、太龍寺、平等寺の 3 札所にはそれぞれの登山口まで送迎してくれるので、この 3 札所の区間だけ歩けば歩き遍路も繋がるという訳である。2 食付 6,500 円。弁当おにぎり付。

*民宿「金子や」はお遍路に聞くと評判が悪い。**道の駅には四阿があり汚いが布団も備えてあつた。泊可？



恩山寺



立江寺



生名付近の田園風景



生名の鶴林寺への登山口⇒

9月14日

鶴林寺登山口～②鶴林寺～②太龍寺～②平等寺 計 19.9km

6:30 民宿「鮎の里」発(車)～6:50 生名・鶴林寺登山口発～8:50 鶴林寺発～9:50 那賀川・水井橋、同10:10 発～13:00 太龍寺着、同発 14:00(R/W)～R/W 下駅(和食)～ラーメン昼食～15:40「和食」バス停発(バス)～15:55 山口小学校前下車～16:45 平等寺着。

昨夜泊まった民宿の御主人に鶴林寺登山口まで送って貰って鶴林寺への急坂に取り付く。途中の蜜柑山に茅葺の遍路小屋があり、眼下には勝浦川沿いの平野が眺められたので、暫し休息を摂った。

鶴林寺の本尊は黄金の地藏菩薩で、この地藏菩薩を守りながらこの地に降り立ったという2羽の鶴が本堂前で守護のお役目を果たしている。2羽の鶴も右側が開口、左側が閉口の“阿吽”となっている。山門にも仁王様の替りに鶴が羽ばたいていた。

鶴林寺から次の札所太龍寺へ行く道は急勾配の下り山道であった。それも急な土止めの階段状が連続しているの、足が笑うこと夥しい。1時間ほどで那賀川に降りたが、この急な下りにはマイった。

マ、殆どの遍路は車やツアーバスで寺まで登って来るのであろう、この道は草生くさむしていた。

那賀川は、この地を襲った今夏8月中旬の集中ゲリラ豪雨で大洪水の被害を蒙ったとのことだが、川岸に引き掛かったゴミや流木、水流で押し曲げられた樹木の様子から、この川の水位がこれから渡る水井橋の橋床を越えていたことが分かる。凄まじい氾濫であっただろう。

水井橋からは、またまた太龍寺への登りとなった。途中までは林道が通じていたが、最後は急坂の山道となって2時間掛かった。太龍寺の本殿の天井には見事な龍が描かれていた。龍は水や川を司る神で、旱の時の雨乞いや洪水の時の水鎮めなどは龍神を拜むのだそう。一方、弘法大師も水には縁が深いとみえて、大師が歩いた四国遍路道にはいたる所に〇〇水大師堂や〇〇御水庵がある。四国は水が不自由な国であったためであろうか、「御加持水」といって大師が杖を突いた場所から水が湧き出したという伝説はゴマンとある。横道に逸れるが、龍は天竺では「ナーガ」という。阿波の那賀川(なかがわ)は徳島県では吉野川に次ぐ大河であるが、剣山を源流とする大変な暴れ川でもあって、その姿を龍に譬えた命名であるかもしれないという説は、あながち屁理屈ではないのかも知れない。なにしろこの辺りは空海の影が非常に濃い場所柄なのである。

さて。太龍寺にはロープウェイが登っているので、観光遍路が多い。これらの観光遍路を見ているうちに、我が足は頭には断りも無くロープウェイの駅に向かってしまった。マ、それもよしとするか。

例の川崎のお遍路氏とは、ここまでは前になったり後になったりしたが、彼はここから車道を下った麓の黒河で遍路宿「鮎の里」の車にピックアップして貰って鮎の里に戻るといので、今後は会えるかどうか分からないので、ここで一応の挨拶をして別れた。

ロープウェイに乗って下り始めると、すぐに舎心嶽という岩山が見えた。大師がこの岩山の頂上に座って修行したという場所だそうで、山頂には太子像が安置され如何にもそのような雰囲気があった。

ロープウェイを降りた「和食」からバスで次の札所第22番平等寺の分岐点で下車、再び道路を歩き始めた。この道路は歩道が無いので危なくて歩きにくいので、山側の農道に入ってみたが途中で行き止まりとなってしまって30分ほどロスした。トボトボと歩いていたら、後ろから来た車が停まった。これから平等寺まで歩いて行くのでは、納経所が閉まる5時には間に合わないの、よければ車に乗って下さいとのこと。見れば京都ナンバーの車であった。お礼を言って乗せて頂いたが、なんと小生が大阪転勤の時に6年間を過ごした京都府長岡京市からのご夫婦であった。これも大師様の縁であろうか。今日は次の札所薬王寺まで行くと言っておられた。

※本日の宿 平等寺門前の民宿「さざんか」 (当日午後予約、「鮎の里」の紹介)

新館に泊まったが、新築で清潔、インバス・イントイレで大変に良い部屋であった。

食事でも大変良かった。2食付新館は7000円、旧館は6500円。



鶴林寺への途中の遍路小屋



勝浦川沿いの平野を俯瞰



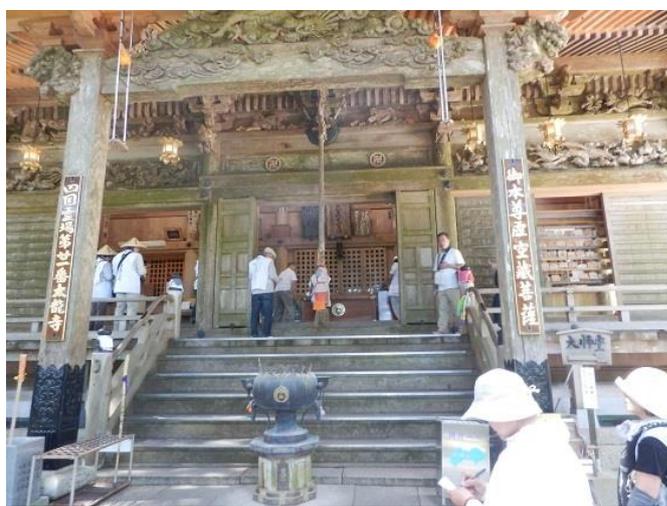
(鶴林寺手前から蛇行する那賀川を俯瞰)



(鶴林寺山門)



(太龍寺)



(太龍寺の天井の龍)



(平等寺)

9月15日

②平等寺～③薬王寺 計 22.6km

6:40 平等寺発～7:40 月夜御水庵～8:10 鉦打、同 8:30 発～10:50 田井ノ浜*～14:30 薬王寺

* 田井ノ浜は海水浴場になっていて、公園で幕営可。水道、トイレ、シャワーあり。

※全て足で歩いた距離としては今回が一番長かった。山溪のガイドブック「四国八十八カ所を歩く」では内陸側の国道 55 号沿いとなっているが、海沿いの県道 25、26 号ルートの方が車も殆ど通らず、また紀伊水道や大平洋岸の切り立った奇岩の眺めも結構であった。この辺りまで来ると歩き遍路はめっきり少なくなり、途中で会った遍路は一人だけだった。途中いくつかの漁港を通ったが、いずれも鄙びたものだった。薬王寺参拝後は日和佐で泊まる予定にしていたが、時間が早かったのでその日の内に JR 牟岐線日和佐駅から電車で徳島駅まで戻り、駅前のビジネスホテル「アストリア」に投宿、近くの焼き鳥屋「いがらし」の止まり木にとまって独りで打ち上げをやった。

※翌9月16日は、午前中に徳島市内の「阿波十郎兵衛屋敷」を訪ねて人形浄瑠璃『傾城阿波の鳴門』の「順礼歌の段」を観た後、淡路島経由の高速バスで神戸の三宮に出て、潔ちゃん宅に一宿一飯の恩義に預かった。



(県道25号線に入った途中の遍路小屋にあった看板。この辺りは車は殆ど通っていないので安心して歩けた)



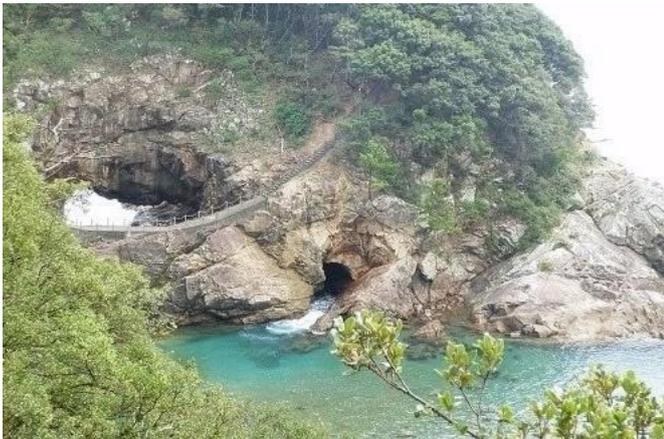
(このような看板も)



(田井ノ浜の海水浴場)



(どこかの奇岩)



(ここも大師ゆかりの?海蝕洞、遊歩道あり)



(日和佐付近の奇岩)



(これは相当古い?)



阿波最後の霊場 第23番札所葉王寺 ⇒
(次の札所は室戸岬の第24番最御崎寺、ここから徒歩4日)

【以下、阿波十郎兵衛屋敷】



(「第1回歩き遍路」阿波ノ巻 了)

「第1回歩き遍路」目次に戻るには、ブラウザーの戻るボタン  で戻って下さい